

長期的視點

市川 浩

世に長期的視點の重要性を説く識者多しと雖も、實生活に活用して其の効果を享受するなど最近殆ど其の例を見ず。然れど小生若年の頃は國敗れて苛酷の將來を案ずる論多かる中、幸ひ媾和條約締結に漕ぎ著け、或いは米の配給を敗戦後も守り切りたるを一つの貴重の勝利と捉へ、或いは當面の經濟的競争相手は英國なりとし、更には貯金を獎勵して長期複利の効果を説くなど、二三十年先を論じて啓發するもありけり。

敗戦後四分の三世紀を過ぎ、今更に聯合國による對日處理案の長期的展望明らかになりつるあり。それへの抵抗、反撥の動き少きは或る意味該處理案の成功を物語れり。特に我國の言論は押し竝べて長期的考察を故意に避け、時來りて彌縫の策に走ること一再ならず。東日本大震災にて福島原子力発電所被災するや、首都圏は電力不足となり、計畫停電實施せらる。然るにこの施策、地域毎の不公平多々發生し、早々に實施中止となる。然るに不思議にも電力不足は發生せざりき。原發はなくとも、電力は十分供給せられたり。然れば原發は無用の設備として脱原發の論、元首相まで捲き込み大いに盛上がりけり。然れど數年後、我國は石炭使用による温室効果ガス發生の地球規模の責任を國際的に追及せらる。初めて知る福島原発被災による電力不足は、既に脱卻せる舊式石炭火力発電の再稼働により賄はれたりと。原発再稼働には原子力規制委員會を始め、都道府縣知事の許可以外に地元の諒承を要すなど、「原發の再稼働には最大限の規制を實現せり」と當時の首相は豪語するも、環境を害する石炭火力の再稼働には如何なる規制ありきや。

菅首相は昨年就任早々二〇五〇年温室効果ガス排出實質ゼロの目標を明示、三十年後を見据ゑたる就任會見は大方の好評を博せり。引續きて福島原發の三重水素含有排水トリチウムの海洋投棄を決定す。更に今月十七日には米國を訪問、バイデン大統領と會談し、九年後の二〇三〇年目標に確乎たる氣候行動を取らむと決意を表明す。一連の動きに我國の政治漸く長期的視點恢復の兆を見るべし。

但し此處にて長期的視點と言はば、人は多く未來への豫見と理解す。そこには希望、危惧様々あれど實證無し。必ず未來と共に過去への考察を要す。未來は見えず、過去には學ぶべき事實あり。

氣候行動と言ふ時、原子力発電は最重要の主題として考へざるべからず。然るに我國にては大衆報道を始め、話題として禁忌する傾向あるを憂ふ。爲に當該機關は極力事實の發表を回避せむとし、却りて事態の悪化を招きたり。例へば防災訓練を實施せむとも、「絶対安全」を明言せる手前、矛楯を指摘せらるゝを懼れ、訓練を中止せるありなど聞くにつけても、地元への胸襟を開ける對應の重要性に思ひを致すと共に、言葉としても「原發」は「原爆」に

近すぐとも感ず。發電には「火力」、「水力」、「風力」の別あり、原子力は「核分裂」、「核融合」あれば「裂力」、「合力」等は如何。

(令和三年四月二十八日)